

第 3 回
「雲仙・普賢岳溶岩ドーム崩壊に関する調査・観測及び対策検討委員会」
討議結果

● **岩屑なだれの発生事例について**

■ 岩屑なだれの末端付近でも、数cm～1mの岩塊が含まれることが確認された。

● **岩屑なだれの粒径の再評価について**

■ 岩屑なだれについて国道57号付近で約1m程度の岩塊の到達を想定することが妥当であることが確認された。

● **溶岩ドーム崩壊によって発生する土砂流出の整理**

■ 現況施設において、岩屑なだれに加え、溶岩ドーム崩壊後の土石流によっても被害が発生することが確認された

● **ハード対策の検討・ソフト対策について**

■ 溶岩ドーム崩壊(case3)後の土石流について、現況施設の嵩上げで対処可能であることが確認された。

■ case4、case5については、ハード対策とソフト対策の組み合わせで対応する必要がある。